

|   |                               |                |     |
|---|-------------------------------|----------------|-----|
| 科目名 (Subject)   | 現代企業組織法務特論 (英訳) Corporate Law |                |     |
| 単位数 (Credits)   | 2単位                           | (開講時期)         | 後期  |
| 担当教員名 (Name)  | 多木誠一郎 (英訳) Seiichiro Taki     | 研究室番号 (Office) | 435 |
| Office Hours  | 月曜日13時00分～14時00分。左記時間外でも訪問歓迎  |                |     |
| <p><b>1. 授業目的・方法 (Course objective and method)</b></p> <p>(目的)<br/>非営利法人の事業・組織・運営について、高度専門職ないし研究職として通用する学力を身につける。</p> <p>(方法)<br/>各回のテーマごとに受講生に報告してもらい、全員で議論するゼミナール形式で行います。使用教材は受講生の関心・レベルに応じて、受講生と相談の上で決めます。</p> <p><b>2. 授業内容 (Course contents)</b></p> <p>非営利法人の事業・組織・運営を下記の通り一通り取り上げる予定です。もともと、受講生の関心に応じて柔軟に対応します。<u>非営利法人の事業・組織・運営以外をテーマにして欲しい等 (例えば、会社法、第一次産業と法、アグリビジネスと法、商取引と法、金融決済と法、会計・監査と法……)</u>、何か特別の希望がある場合には、気軽にご相談下さい。</p> <p>①非営利法人とは<br/>(予習課題) 非営利法人の種類<br/>(復習課題) 営利法人との異同</p> <p>②非営利法人の歴史 (海外)<br/>(予習課題) 授業中に指示<br/>(復習課題) 授業中に指示</p> <p>③非営利法人の歴史 (日本)<br/>(予習課題) 授業中に指示<br/>(復習課題) 授業中に指示</p> <p>④非営利法人の法的概念<br/>(予習課題) 非営利法人の法的概念要素<br/>(復習課題) 授業中に指示</p> <p>⑤法人全体における非営利法人の位置付け<br/>(予習課題) 非営利法人を規整する各種の法<br/>(復習課題) 授業中に指示</p> <p>⑥非営利法人における社員関係<br/>(予習課題) 社員関係の得喪<br/>(復習課題) 社員の権利義務</p> <p>⑦非営利法人の事業<br/>(予習課題) 事業の範囲<br/>(復習課題) 事業規制の適否</p> <p>⑧非営利法人の管理——その1<br/>(予習課題) 機関構成<br/>(復習課題) 規整の趣旨と実際</p> <p>⑨非営利法人の管理——その2<br/>(予習課題) 非営利法人に関する最近の事件<br/>(復習課題) 役員の義務と責任</p> <p>⑩非営利法人の財務<br/>(予習課題) 資金調達<br/>(復習課題) 授業中に指示</p> <p>⑪非営利法人の組織再編<br/>(予習課題) 組織再編の手段<br/>(復習課題) 各手段の長短所</p> <p>⑫非営利法人の外部監査</p> |                               |                |     |

(予習課題) 監査の必要性

(復習課題) 監査の独立性

### ⑬国家と非営利法人

(予習課題) 非営利法人と国家との関係

(復習課題) 非営利法人に対する行政庁の監督権限

### ⑭海外における最近の動向

(予習課題) 授業中に指示

(復習課題) 授業中に指示

### ⑮わが国における最近の動向

(予習課題) 授業中に指示

(復習課題) 授業中に指示

## 3. 使用教材(Teaching materials)

受講生の関心・レベルに応じて、受講生と相談の上で決めます。

## 4. 成績評価の方法(Grading)

| 評価の要素                | ウェイト |
|----------------------|------|
| 出席率                  | 10%  |
| 授業への参加度(事例, 討論, 調査)  | 60%  |
| ホームワーク(事前課題の提出)      | 20%  |
| 試験ないしプレゼンテーション(最終課題) | 10%  |

## 5. 成績評価の基準(Grading Criteria)

秀(100~90): 企業組織法について秀でた理解力を有し、企業組織法上の法的問題を解決する能力が秀でている。

優(89~80): 企業組織法について優れた理解力を有し、企業組織法上の法的問題を解決する能力が優れている。

良(79~70): 企業組織法について良好な理解力を有し、企業組織法上の法的問題を解決する能力が良好である。

可(69~60): 企業組織法について理解力を有し、企業組織法上の法的問題を解決する能力がある。

不可(59~0): 企業組織法についての理解力が不十分であり、企業組織法上の法的問題を解決する能力が不十分である。

## 6. 履修上の注意事項(Remarks)

コツコツと地道に勉強していきましょう。

法学の勉強をしたことがない方も履修可能です。

受講生の希望があれば、①札幌サテライトでの授業、②集中講義の形式での授業、③取り上げるテーマの変更等(上記2参照)、柔軟に対応します。気軽にご相談下さい。